平成３０年度小松市立木場小学校　学校評価

めざす児童生徒像

○よく考え工夫する子（思索）　主体性・知識・技能の定着　思考力・表現力
○たくましい心と体の子（剛健）　言葉づかい・あいさつ
○思いやりの心で協力し合う子（誠実）　集団づくり

※児童生徒達結果－教員結果･保護者結果

	目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	中間 数値・アンケート結果（%） 教員	児童生徒	保護者	※差	年度末 数値・アンケート結果（%） 教員	児童生徒	保護者	※差	達成状況の分析	改善策
学校重点項目（学校で設定）	自己有用感の向上		②③を８０％以上にする	① 自分にはよいところがある	100	89		−11	89	82		−7	教員と児童のめざす姿に依然として差がある。木場小児童の長所・短所，目標とする姿を生活・学習それぞれの面で教師・児童が共通理解しておく必要がある。また，足りないものについて，その理由も含め確認することが大切である。本校の課題となっている自主性を育む具体的な手立てを提示していく必要がある。	授業・特別活動等において「できた・わかった」の積み重ねによる向上意識の創生，よりよい学校・学級づくりへの目標の共通理解。目的意識・主体性を持たせる形での取組が大切である。努力した後の成功体験を積ませ，困難を克服する力を育む具体の手立てが必要である。○○検定などでの努力の承認や個人・クラスの○○自慢など互いを認める場を増やしていく。
				② 失敗を恐れないで挑戦している	60	88		28	56	88		32		
				③ 自分は，人の役に立っている	80	81		1	78	82		4		
				④ 先生は，よいところを認めてくれている	100	78		−22	100	89		−11		
				⑤ 家の人は，がんばったことをほめてくれる		89	96	−13		92	100	−8		
				集計	85	85	96	−3	81	87	100	2		

	目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果（%） 教員				数値・アンケート結果（%） 教員				達成状況の分析	改善策
石川県共通重点項目	働き方や業務の改善		①やりがいや達成感を持って仕事をしている割合を１００％にする。	① 仕事にやりがいや達成感を感じている	100				100				タイムカード導入に伴い勤務時間意識・タイムマネジメントの重要性への意識改革は向上した。平均残業時間57時間（4月）⇒32時間（12月）とかなり減少。しかし，80時間超勤務の職員も見られ，業務の偏りがある。慢性的な残業・持ち帰り仕事・休日出勤等，実態を把握し，今以上に効率化を図る努力をする一方，様々な活動の精査・吟味も必要である。職員の協働体制の下，やりがいのある職場を目指していきたい。	効率的な業務の遂行に向け，タイムマネジメントの促進に努めるとともに，業務の見直しや分業体制を一層進める。また，豊かな人間性を育むため，職員の親睦交流・人間力向上に心がける。（定時退校・勤務時間外の時間の活用を促す。）
				② タイムマネジメントに心がけている（子どもとふれ合う時間・教材研究・校務分掌　等）	90				90					
				③ 勤務時間意識を持って行動している	90				80					
				④ 自己研修・ゆとりの時間を作っている	100				90					
				⑤ 一人ひとりの改革プランを実践している	90				90					
				集計	94	0	0		90	0	0			

	目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果（%） 教員	児童生徒	保護者	※差	数値・アンケート結果（%） 教員	児童生徒	保護者	※差	達成状況の分析	改善策
小松市共通重点項目	指導力の向上	学校研究	④の目標値を１学期80%，2学期85%，3学期90%以上にする。	① 校長のリーダーシップのもと，研修リーダー等を校内に設け，校内研修の実施計画を整備するなど，組織的，継続的な研修を行っている	100				100				①～③の項目は，１００％。④の項目については，１学期よりも数値が下がり，目標値を下回った。職員間での授業規律，学習ルールの共通理解はできていると思われる。しかし，児童への定着という点で十分ではない部分がある。	２学期の木場っ子のやくそく・話し方・聞き方のふり返りから，各学級での良い点・課題が見えてきている。３学期始めに，学級の児童と目標を決め，時折ふり返る場を持ちながら，良い所は継続し弱い部分は改善していけるように指導し，定着を図っていきたい。
				② 指導主事や大学教員等の専門家が，校内研修の指導のために定期的に来校している	89				100					
				③ 教員一人一人が授業研究を伴う校内研修を計画的に実施している	100				100					
				④ 全教職員が授業規律，学習ルールを共通理解し，それが児童に定着している。	78				75					
				集計	92				94					
		授業	②の目標値1学期75%，2学期80%，3学期85%以上にする。 ⑧の目標値1学期80%，2学期85%，3学期90%以上にする。	① 児童生徒が自らが設定する課題や教員から設定される課題を理解して授業に取り組んでいる	100	84		−16	100	81		−19	②の項目は，８５％で1学期より数値は下がったが，目標を達成できた。話し合う活動は取り入れているが，深めたり広げたりするところまで至らない現状が見られているのではないかと思われる。 ⑧の項目は．８８％で目標を達成できた。児童の結果も，８６％と，どちらも１学期と同じ数値だった。	国語だけではなく，様々な教科や学活で，話し合う場面（一斉・グループ・ペア）を設定するときには，目的を持たせて行っていくようにする。「わからなかったけど，相談したら～なことに気付いた」など，話し合った後にその良さを実感させることを大切にしていくようにする。 ２学期の「木場っ子のやくそく」「話し方・聞き方」のふり返りから，「木場っ子のやくそく」はよくできてきていること，相手意識を持った話す・聞くが弱いことが見えてきた。３学期始めに，学級の児童と良い点・弱い点を共有し，学級の目標を決め児童が意識して行動できるようにする。目標が意識されてできてきたときには，時を逃さずほめ，　認め，次につなげるようにしたい。
				② 児童生徒は，学級の友達との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができている	100	85		−15	86	85		−1		
				③ （発表力） 児童生徒は，自分の考えを発表する機会では，自分の考えがうまく伝わるよう，資料や文章，話の組み立てなどを工夫して発表している	50	80		30	63	78		15		
				④ （記述力） 児童生徒は，自分の考えを発表する機会では，自分の考えがうまく伝わるよう，資料や文章，	63	85		22	63	82		19		
				⑤ 児童生徒は，授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っている	88	86		−2	100	89		−11		
				⑥ 児童生徒の資質・能力がどのように伸びているかを，児童生徒自身が把握できる	88	96		8	75	93		18		
				⑦ 一人一人の学びの多様性に応じて，学習の過程における形成的な評価を行っている	100				100					
				⑧ 児童は，授業規律をきちんと守っている。	88	86		−2	88	86		−2		
				集計	85	86		4	84	85		3		
	学力の定着	学力調査・教科	⑤単元テストの各領域の平均点８５点以上 １学期７５％ ２学期８０％ ３学期８５％　以上	① 学力調査の自校採点の結果は全教職員で共有し，経年的な分析に基づいて，重点目標や具体的な取り組みが設定されている	100				100				教職員アンケートの結果①～③の項目については，平均77%となった。これは，④の小中連携の評価が低かったためである。⑤の項目に関しては，数値が上がってきている。4教科の単元テストの各領域の平均点は，85点以上が13領域中13領域，到達率で１００％と目標を上回ることができた。しかし，個人差があり確実に当該学年の学力が身についているといえない現状がある。	④の分析結果の成果や課題から，小中連携で，どのような方法で共有していくのかを共通理解する必要がある。 学力は，個人差がある。児童には，基礎基本の定着を図り，活用力を高めることに重点を置き，今後も教職員全体できめ細かい指導を行い，一人一人の学力を確実に上げていけるようにする。
				② 学力の重点目標や取り組みは全教職員で共通理解し，目標を達成できるよう取り組みは徹底して行っている	89				89					
				③ 学力向上ロードマップにおける各自の役割を教職員が理解し，定期的な検証がなされている	100				100					
				④ 近隣等の小中学校と学力調査の結果や分析，成果や課題を共有している。(小中連携)	75				33					
				⑤ 当該学年の学力を確実に身につけている。	50				63					
				集計	83				77					
		家庭学習	③毎日（学年×家庭学習）に取り組む児童の割合が １学期７５％ ２学期８０％ ３学期８５％　以上	① 自分で計画を立てて勉強している。（３年以上）	83	77	60	−6	57	81	58	−23	アンケートの結果から，集計結果が75%を超える数値になり目標を達成できた。どの学年も家庭学習が定着している成果が出ている。しかし，自分で計画を立てて勉強することは５７％と依然を大きく下回った。	①の計画を立てて勉強する意識は教師と児童，保護者の意識の差があるので，各学年ごとに家庭学習の取り組み方を紹介して，自ら計画を立てて学ぶことを取り組ませていけるようにする。
				② 児童生徒の家庭学習の評価・指導を行っている。	100				100					
				③ 毎日学年×10分の家庭学習に取り組んでいる。	75	82	89	7	75	77	84	7		
				集計	86	80	75	1	77	79	71	−8		

平成３０年度小松市立木場小学校　学校評価２

	目標・具体的取り組み （①いつまでに②どのように③だれが）	取組の状況（８月提出）	取組の成果と課題（３月提出）
生徒指導	礼儀正しく節度ある態度　（生徒指導主事） ・明るいあいさつに向けた児童主体の取り組みを工夫する。 ①前後期②朝のあいさつ運動③児童会を中心に全校児童 ・「節度ある言葉遣い」や「人間関係づくり」をソーシャルスキルトレーニングやエンカウンターなどを通して学び，適切な態度を身につける。 ①学期に１回②学活でのソーシャルスキルトレーニングやエンカウンターの実施③担任	・運営委員会主催の「あいさつGO」の取り組みにより，児童が進んであいさつをすることができた。そのときの児童の良い姿が継続できるように，2学期以降工夫する必要がある。 ・１学期中に１回，学活などでソーシャルスキルトレーニングやエンカウンターを行うよう呼びかけた。児童アンケートでは，「友達と仲良く遊んだり協力したりする。」の項目の達成度が91％という結果であり，よりよい「人間関係づくり」に関しては成果が見られる。しかし，「節度ある言葉遣い」に関しては改善傾向にあるが，普段の児童の様子をみると課題が残る。今後も，継続して指導していく必要がある。	・全校集会で，明るく礼儀正しいあいさつについて「あいさつ５つの手」として紹介した。児童会の児童と共に，デモンストレーションを交えながら具体的に紹介したことにより，会釈をしながらあいさつをする児童が増えた。３学期には，児童会主体のあいさつ運動を行い，明るいあいさつが広がっていくよう工夫していく。 ・１学期に引き続き，ソーシャルスキルトレーニングやエンカウンターの取組を行った。この取り組みにより，児童は楽しく「人間関係づくり」を行うことができた。振り返りを行い，次年度につなげていく。 ・「節度ある言葉遣い」に関しては，日常的に粘り強く指導を行い，相手や場にあった言葉遣いができるように継続して取り組む必要がある。
生徒指導	いじめの未然防止・早期発見・早期対応 （教育相談担当・生徒指導主事） ・気になる児童の状況と手立て及び変容の共有，共通指導を図る。 ①毎月②児童の状況の変容と手立ての確認③担任及び担当する職員 ・個別面談を通していじめ等の発見及び解消を図る。 ①年３回＋年１回②アンケートをもとにした担任との個別面談「お話タイム」＋心の相談員との個別面談③担任＋心の相談員	・児童理解の会を毎月開催し，気になる児童の状況や変容のあった実態，問題点を全教職員で共有し共通実践に努めた。 ・いじめの未然防止，早期発見のため「木場っ子アンケート」を実施し，その結果をもとに担任が「先生とのお話タイム」として個人面談を行い，実態把握に努めた。 ・心の相談員と4～6年の児童との個人面談も並行しておこなっており，児童の多方面からの把握に努めた。	・毎月の児童理解の会では，気になる児童の実態や問題点を共有し児童理解に努めた。また，職員会議や職朝などでも情報交換に努め，共通理解・共通実践につなげることができた。 ・学期ごとに「木場っ子アンケート」を実施し，その結果をもとに担任と個人面談を行い，いじめの未然防止，早期発見に努めることができた。 ・アンケート結果からは，問題に対する職員の意識のさらなる向上を図る一方，保護者との連携をさらに深めていく必要があるという課題が見えてきている。 ・心の相談員との面談により，違う立場からの面談が児童の違う側面の把握につながり，児童理解をより深めることができた。
児童会	児童主体の取組の工夫（児童会担当・生徒指導主事） １児童会組織の活性化 ①毎月②活動計画の立案・運営・ふり返りを児童自ら行う。（委員会記録）③児童会・委員会担当者 ２縦割り活動 ①清掃活動や運動会等の縦割り活動（他学年との交流）②人間関係づくりを通してルールや役割分担の必要性を自覚させる。一人一人に活躍の場を与え，達成感を味わわせ自己有用感を高める。③掃除担当者・縦割担当者	・前期委員会発足の際に活動計画を立案し，児童が主体的に活動できるようにした。また，毎回の委員会で委員会カードを用いて児童が自己評価を行い，委員会の活動の振り返りを行った。児童アンケートの結果を見ると，児童の自己肯定感は向上しつつあるが，今後も児童の主体性を尊重し，できたことを評価して自己肯定感の向上に努めていく必要がある。 ・1年生を迎える会での縦割り活動では，高学年が中心となって協力して活動することができた。清掃活動では，児童アンケートの「そうじを一生懸命取り組む」という項目が97％という結果だった。リーダーが中心となってもくもく掃除を行うことができた。	・前期委員会活動の振り返りをしっかり行い，後期の活動につなげた。また，後期委員会発足の際には，前期同様に児童と共に活動計画を立案することで，児童の主体性を生かすことができた。 ・人権集会では，児童会主催で縦割り班を中心に積極的に関わり，全校児童が仲良く活動することができた。交流の中で，高学年が低学年に配慮する様子も見られた。人権宣言により各クラスの取組を言葉で表現できたことは，目標の交流という点で成果があった。次年度も継続して行っていきたい。児童アンケートでは，「友だちと仲良く遊んだり協力したりする」の項目が93％から97％に向上した。 ・今後も委員会活動の場で，さらに児童の姿を認める機会を増やし，児童の自己有用感の向上につなげたい。
特別支援教育	一人ひとりのニーズに沿った支援の充実 （特別支援コーディネーター） 該当する児童の実態や支援方法を職員で共通理解するとともに，児童の抱える課題を把握し校内委員会で話し合い，適切な支援を行う。 ①学期に１回，適宜 ②校内委員会 ③校内委員会出席者	・支援の記録を担任に定期的に確認してもらい，共通理解を促した。また，気になる行動などがあれば，その都度担任やコーディネーターと話し合った。 ・「切れ目のない支援」として，他機関と関わりがあった児童に対して教育支援計画を作成した。 ・２学期に向けて新たに支援の必要な児童についても話し合いを行い，望ましい支援方法を考えていく。	・支援の記録で気になる児童に対して，支援員と情報を共有し，校内委員会で共通理解をすることができた。 ・専門相談員の派遣を要請し，望ましい支援方法の共通理解のもと，適切な支援を実施することができた。 ・進路を決める手助けとして，希望している中学校での体験学習を行い，進路選択に活かすことができた。 ・児童だけでなく，子供を心配する保護者に対しても相談機関を紹介し，家庭との連携を図ることができた。 ・今後も児童理解や校内委員会に名前が挙がらなかった児童に対しても担任と情報共有していく必要がある。
道徳教育	道徳授業の改善（道徳教育推進教師） ・別葉を活用し，１年を通して他教科との関連を図り道徳教育を行う。 ・家庭と連携して道徳教育を推進していくために， ①年３回②授業参観（授業公開）・家庭向け道徳便りの発行③１，２，６年担任・推進教師 ・道徳教育の充実を図るために， ①年数回②職員向け道徳便りの発行③推進教師	・別葉と指導計画を綴ったファイルを学年ごとに配布し，学期末に，重点指導内容の振り返りを行った。道徳や他教科の授業での児童の様子や授業内容について各担任が振り返り，職員間で共有した。 ・家庭に向けた道徳便りを１回発行し，道徳の授業についての理解を図った。 ・職員に向けた道徳便りを１回発行した。道徳の評価の仕方や授業での児童の見とり方，文例などを載せ，それらについて共通理解した上で，日々の授業や通知表の記入の際に活用できるよう努めた。	・各学期ごとに重点指導内容の振り返りを行い，道徳やその他の教科における児童の様子を共有できた。 ・授業参観での授業の様子や学級通信，家庭に向けた道徳便りで授業の様子や児童の様子を伝えることができた。 ・職員に向けた道徳便りで評価の在り方などを共通理解することができた。授業づくりや授業の工夫についても道徳便りで発信し，道徳教育の充実，職員間での共通理解を図っていきたい。
情報教育	情報活用力の育成（情報担当） ・情報モラル教育の推進を図る。 ①学期毎②取組状況の確認・呼びかけ③情報担当 ・情報機器操作の技術の向上を図る。 ①年１回②OJTの実施③情報担当 ・ICT指標をもとにした取り組み（各学年で身に付けるべき力を確認し，教科の学習や総合的な学習，特別活動等で取り入れる） ①２月末日②３学期：児童アンケート③情報担当	・各学年に情報モラル教育の年間指導計画に基づき，授業を行うよう声掛け，６月の授業参観において，保護者に向けて情報モラル教育の公開授業を行う学年も見られた。 ・保護者向けに「e-ネット安心講座」総務省・文部科学省後援を行い，ネットトラブルについての理解を深め，保護者の意識を高めることができた。 ・家庭学習強化週間の取組に合わせ，ノーメディアデーの時間を設け取り組むことができた。	・授業実践の声掛けにより，早期に情報モラル教育の実践ができた。発達段階に応じた内容を選択して授業を行う学年が見られ，児童の情報モラルへの意識が高まった。 ・ＩＣＴインストラクターを招聘したことで，児童のＩＣＴ活用能力を高める手助けとなった。 ・教材のＩＣＴ化に向けて，教材作りに役立つアプリケーションの紹介をした。紹介だけに終わってしまったので，実際にどのような教材を作ることができるのかを示し，広めていく必要があった。 ・2月末にＩＣＴ指標をもとにした取り組みアンケートを行い，次年度につなげる予定である。
保健健康教育	健康の増進（養護教諭・保健主事） ・睡眠を中心に保健指導を実施し，自己を振り返り，健康的な生活を送ることができるよう働きかける。 ①学期に１回　②発育測定時に指導する　③養護教諭及び学級担任	・睡眠について４月の発育測定時，および６月の全校集会時に集団指導を行った。 ・保健だよりに睡眠について毎号記事を載せ，担任による学級での指導が実施できるよう努めた。また保護者向けの記事も掲載し，家庭への働きかけを行った。 ・「スヤスヤすくすく睡眠カード」を作成し，自己の睡眠状況を振り返らせるとともに，望ましい睡眠時刻について目標を立て，それを遂行できるよう睡眠時刻調べを行った。家庭の協力を求め，取り組み後の自己評価も行った。	・計画通り，発育測定時に毎回集団指導を実施することができた。 ・保健だよりに毎号記事を載せ，担任による指導が実施されたことにより，児童の睡眠に関する知識理解はかなり深まった。 ・習い事等の関係で生活時間の変更をすることが出来ない児童もいるため，睡眠の質を高めるための工夫も指導した。 ・「スヤスヤすくすく睡眠カード」の取組では，自分の睡眠状況を振り返り，それぞれに工夫が出来ていた。 ・取組期間は早寝を意識できていたようだが，それ以外の日への拡がりが今後の課題である。
体育教育	体力の向上（体育担当） ・鉄棒・水泳・マラソン・なわとびの４種目についての技術やタイムの向上を図る。 ①鉄棒（５～７月）・水泳（６～８月）・マラソン（１０月）・なわとび（１２～３月） ②児童に目標を設定させ，体育学習カードを使って技術やタイムの向上を目指す。 ③体育担当，担任	・鉄棒，水泳について学習カードを使い，児童の目標を設定させ，意欲的に取り組めるようにした。 ・水泳指導では，各学年の授業計画例の配布，参考図書の提示を行った。指導方法を参考に系統的な指導につながるようにした。 ・体力テストに向け，昨年度の県平均のデータを体育館に掲示することで，意欲的な取り組みにつながった。 ・スポチャレ４０ｍを行い，各学年目標に向かって取り組み，授業以外に運動に親しむ機会を増やした。	・学習カードをもとに運動に意欲的に取り組む姿が見られた。さらなる意欲につながるよう，がんばって取り組めた子を表彰するなどの評価を与えてもよい。 ・女子の体力が，県平均と比較して低い。女子も進んで運動する環境作りが必要である。 ・一年を通して運動に取り組む機会を与えたことで，全児童が継続して運動に取り組むことができた。 ・スポチャレを各学期，種目を変えて行ったことで，運動に親しむ機会が一年を通してあった。しかし，時期によっては，他の運動する時期と重なり，十分に取り組めない時期もあった。
人材育成	校内研修の充実（教頭・各担当） ・計画的・積極的に学校OJTに取り組み自己研鑽に努める。 ・年間スケジュール表に位置付けられたOJTの内容 ①毎月：部会・運営委員会②取組状況を確認・修正③主任・各担当	・校務分掌部会・学年部会をはじめ，日常の教職員の気づきや交流により，自然な形でＯＪＴがなされている。 ・各担当が各分掌に応じた研修の場を設定し，有効に実践することができた。特に，児童の安全面・危機管理に関する研修を最優先に取り組むことができた（緊急時・嘔吐の対応・避難訓練・消防施設等）。今後も，適宜，研修の場を設けていきたい。 ・授業づくり・業務改善に向けてタイムマネジメントのOJTが実施できたことで，時間の有効活用と勤務時間意識の高揚につながった。	・校務分掌部会・低高部会を始め，協働体制の下，教職員の気づきや交流により日常的にＯＪＴがなされている。 ・年間を通して，職員として把握しておきたい安全危機管理研修については計画的に行うことができ，来年も年間スケジュールの下，取り組んでいきたい。 ・一方，授業技術・生徒指導等の指導力向上研修については，十分とは言えない。来年度，若手教員早期育成プログラムが県下一斉に取り組まれることになるが，時期・内容面等，教務・研究と連携を図りながら計画的・組織的に取り組めるようにしたい。
学校関係者評価	学校運営については，職員の協働体制の下，概ね良好に運営されている。不登校児童もなく，「学校に行くのが楽しい」と感じている児童の割合も高い。今後も勉強に運動に楽しい学校生活が送れるよう先生方の尽力に期待したい。また，落ち着いた学習環境の中で，さらに子ども達の学力を伸ばしていってほしい。 課題となっている主体性については，自己表現の場を設けていただき，子ども達の積極性を促し，意欲的な活動の中で自己有用感を高めてほしい。地域・保護者，協力して，学校の様々な活動を今後も支援していきたい。 ２０２０年東京オリンピック・パラリンピックに際し，木場潟がカヌー競技の練習会場となる。この機に，学校・地域が連携して国際交流に貢献できればと思う。		